



らえないんじやないかと心配している人がたくさんいます。老人問題に興味をもつていたのでリポートしたんですが、老人ホームのもつと立派なものが子供たちがよそへ行つて働きできればいいですね。もし自分が「市

にできているこんな所に入つて生活するから、おまえたちは好きなことをやれ」と安心して言えるような施設が欲しいですね。今、話を聞いていて、市長のビジョンの中では、老人福祉エリアの構想を進めていたということでしたから、安心だなという

感じはしますけど。

藤原 私は、農機作業事故のことをテーマに取り上げましたが、高齢者の農機作業はとても危険だと思うんです。これからますます高齢化が進んでいきますし、高齢者がいつまでもやらなくてもいいような農業を考えたいと思います。

市長 私も新聞でトラクター事故の記事を読んで心を痛めました。高齢者の人が、もうちょっと自分の好きなことをやって過ごせるような環境にしていきたいと思つてます。

農業 農業はこれから、たとえ関税化になろうが米が開放になろうが、生き残ることを考えるしかないわけですよね。生き延びていくには、ここ数年が勝負だと思つています。基盤の整備なり、体制の整備なり、思い切った手打つておかないと手遅れになると思うんです。ちなみに平成四年から五年にかけて、市の農業予算の伸び率は二倍になつているんですよ。

渡邊 市長さんにああしてほしい、こうしてほしいというのはたくさんあるんですけど、その前に自分たちがもう少し変わつていかないとダメですね。要請するばかりでは……。今まで家事にばかり追われて、行政のことにあまり目を向けなかつたんですが、リポーターの仕事

をして、意識を持つ

ことが大事だと感

じました。行政に興味を持つてない人が

案外多いんじゃないかなと思います。

市長 一般的の主婦の目つていうのが一番大切だと思いますよ。

武田 リポーターを引き受けたのは、救急医療体制のことをやつてみたいという

のがあつたんです。

私の子供が列車事故に遭いまして、その時は消防本部から救急車が来たんですけど、その時間の長か

と近くから救急車が出動して来

ださい。現状をリポートしても

らって、みんなで改善策を考えていきましょう。

救急体制については、新しいシステムを導入したんです。電話がかかるてくるでしょう。そしたら地域の地図がコンピュータの画面に映し出されるんです。それを見ながら出動後の救急車を誘導できるようなんですが、リポーターの仕事を経験して、行政のことも目が向

られるようになつた気がしてま



市長 大館にとつての課題はいっぱいあります。それをひとつひとつ着実に解決して、すぐそこまで来ている二十一世紀を望しながら仕事をしていきます。

小畠 今日は、貴重なご意見をたくさんありがとうございました。市民の皆さんに盛り上げていた行政ですから、力を合わせて、元気の出る平成六年にしていきましょう。